

# 井寶山 米倉寺



「水を飲みに出た竜」『かながわのむかしばなし50選』  
(昭和58年 神奈川県教育庁 文化財保護課 編著)

梵鐘(寛永7年(1630年)铸造)  
中井町指定重要文化財 第16号

本堂大間・内陣の欄間彫刻六基(天保3年(1832年))  
中井町指定重要文化財 第17号

米倉一族の墓石・供養塔十基(慶長5年(1600年)~天和3年(1683年))  
中井町指定重要文化財 第18号

子育水子地藏尊  
関東百八地藏尊霊場 九十四番札所

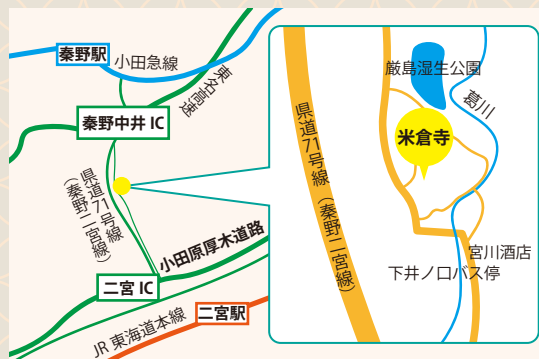
# 曹洞宗 井寶山 米倉寺

関東百八地藏尊霊場

九十四番札所

■電話 0465-81-0181

■住所 〒259-0151  
神奈川県足柄上郡中井町井ノ口 906



## 【バスでお越しの方】

JR「二宮駅」から神奈川中央バス「秦野駅」行き、  
または小田急線「秦野駅」から  
神奈川中央バス「二宮駅」行き乗車、  
「下井ノ口」下車徒歩約10分

## 【お車でお越しの方】

東名高速「秦野中井IC」から車で約6分

## 米倉寺の縁起



当山は、井寶山 米倉寺と号し、曹洞宗に属する寺院である。  
天文元(1532)年の開創で、開山は天宥宗高大和尚(秦野市堀山下の米倉一族の菩提寺である蔵林寺の二世)。もともこの地には用国院という寺院があり、伊豆の普門院を本寺と仰ぎ、宮の鳳安寺を末寺に従えていた。

その後、甲斐武田家の家臣であった米倉丹後守種継公が井ノ口に移住して来た際、両親追善と自己安住のため、用国院を再建して米倉寺と改名した。さらにその後、蔵林寺の末寺となり鴨沢大泉寺を末寺とした。

江戸時代末期には寺子屋を兼ね、やがて、井ノ口小学校の前身である誠成館に発展した寺であり、学校が独立した後は井ノ口村役場となり、昭和に入ってから託児所、疎開児童の受け入れ等を行った。



## 梵鐘

(寛永7年(1630年) 铸造)

中井町指定重要文化財 第16号



梵鐘は110cm・下辺の口径60cm・重量225kgある。

梵鐘の製作は寛永7年(1630)6月27日、五所宮八幡の梵鐘同様、古鐘であったため第二次大戦の金属徴収令を免れた由緒がある。この鐘は米倉寺の前庭で铸造されたと伝えられ、鑄工は宮崎与次兵衛とある。鐘の表面にはぎっしりと願文が刻まれ、この梵鐘は当時の井ノ口村の地頭であった米倉平太夫繁次をはじめ、家々僧俗、無名の人々の心からの寄進による米穀・綿布・金銀鉄銅・その他溶かせる金属類等によって作られた。

## 本堂大間・内陣の欄間彫刻六基

(天保3年(1832年))

中井町指定重要文化財 第17号



本堂大間正面の中央に「龍と雲と波」、左右両側に「唐獅子牡丹」。

内陣正面の中央に「飛龍と雲と波」、左右両側に「麒麟に雲と波」。

大間右側の欄間の裏に墨書があり、この彫刻が天保3年(1832)11月に大野原太郎兵衛・松本善蔵の両名によって寄進され、製作者は二宮町梅沢の住人、杉崎佐吉政貴(町内半分形地区の山車の彫刻も制作)である。

## 米倉一族の墓石・供養塔十基

(慶長5年(1600年)~天和3年(1683年))

中井町指定重要文化財 第18号



墓石・供養塔合わせて10基は井ノ口910番地、米倉寺墓地内にある。この墓と供養塔は甲州武田家臣で、後に徳川家康の旗本になった米倉丹後守種継と、子の平太夫繁次並びに孫の権平一族の墓石と供養塔である。

## 子育て水子地藏尊

関東百八地藏尊 第九十四番札所



山門に入った参道脇の地藏壇に「子育て水子地藏尊」が祀られている。昭和53年(1978年)に曹洞宗梅花流水子地藏御和讃ができた折、当山29世の発願で建立されたものである。

また、堂内には「延命地藏尊」が安置されている。

## 阿吽の竜

「水を飲みに出た竜」

『かながわのむかしばなし50選』

(昭和58年 神奈川県教育庁文化財保護課 編著)



米倉寺には甚五郎作と伝わる阿吽の竜がある。[左]甚五郎は、彫り物に命が宿って動き出すことが特徴的な伝説や物語で語られる人物であり、米倉寺の竜もその流れを汲んでいる。

江戸前期、飛騨で活躍していた甚五郎は、寛永寺鐘樓の柱に巻き付ける竜の彫り物を彫る名工の1人に選ばれ、江戸へ向かう道中、米倉寺で竜の試作を行ったとされる。その後、ある事情により利き腕を失ってしまうが、左腕一本で寛永寺鐘樓の柱に竜を彫り上げる。その竜は他の名工に比べると明らかに見劣りするものであったが、夜になると最も迫力があり、不忍池で泳いだという噂が広まった。その噂が米倉寺のあたりにまで届き、「それなら米倉寺の竜も動き出すのでは…」ということになり、川へ水を飲みに行く際に作物をなぎ倒してしまったことを咎められ、動けないようにされてしまう『かながわのむかしばなし50選』「水を飲みに出た竜」の伝説ができたようである。

